

里山里海アクティビティ

長野大学環境ツーリズム学部 里山里海実習

実施報告書

2010年6月25日（金）～27日（日）

里山里海と地域づくりをテーマに、長野大生30人

金沢大学が能登で実施するプロジェクト「里山里海アクティビティ」がコーディネートをした、長野大学環境ツーリズム学部の里山里海実習が、6月25日（金）より2泊3日の日程で行われました。長野大学独自の認定資格「森の恵みクリエイター」コースの受講生と教員、あわせて30名が参加。日ごろは長野大学の森を舞台に「森林の新しい価値を生み出し地域の発展にどうかすか」を学んでいる学生たちが、能登の里山里海にかかわる地域づくりの現場を訪ね、実践者から学びました。



実習の目的

1. 里山里海の保全活動や地域づくり活動の見学、参加、交流
現場実践者の生の声にふれる
2. 里山・里海をいかした伝統生業と、新しい事業活動について学ぶ
3. 環境教育やエコツーリズムに関連した活動見学、実習

1日目

塩づくりと炭焼きを通して、里海と里山のつながりを学ぶ

1日目 プログラム

◆里山里海の伝統的生業「製塩」と新名物「塩サイダー」

揚げ浜式製塩について塩田と資料館を見学し、里山と里海が隣接している能登ならではの、山と海のつながりを学びました。また、新たな特産品塩サイダーの開発話や、地域活性に対する吉田さんの想いをお聞きました。

講師：奥能登塩田村 吉田 翔 氏

◆炭焼きを生業とすること、地域とのかかわり

里山マイスター養成プログラムの卒業生・大野氏は、窯4基で大規模に炭焼きに取り組む若手炭焼き職人。大野さんの夢「お茶炭の産地化」等について聞き、工場を見学しました。その後、お茶炭の森で草刈の作業をお手伝いしました。

講師：大野製炭工場代表 大野長一郎 氏

◆地域活性に向けた里山里海の活かし方

キノコ山づくりの研究を行う保全林を見学した後、地域で行うNPOの活動について聞きました。NPOの北風八鉢氏にもご参加いただきました。

講師：NPO能登半島おらっちゃんの里山里海／自然学校常駐研究員 赤石大輔 氏

◆夕食&交流会

特に「さざえ飯」が大好評。普段はお茶碗半分しかご飯を食べない学生が、なんと2杯もおかわりしました。食後に長野大学と金沢大学関係者がそれぞれ自己紹介をし、研究等の情報交換を行いました。

会場：金沢大学能登学舎 地産地消費堂「へんざいもん」



塩田村で、吉田さんの塩サイダー開発の話に参加者は興味深々でした。

大野製炭工場。大野さんの夢にたいへん刺激をうけました →
そして夢のお手伝い。一昨年前植林したクヌギ林の草刈り ↓



保全活動

赤御膳でいただく珠洲の郷土料理。さざえ飯やハタハタの塩焼きなど能登の幸を堪能しました。↓



↑ 地域に常駐する赤石研究員からNPO保全林を案内してもらいました。

2日目

能登の穏やかな内湾をいかした、川と海のアクティビティを体験

2日目 プログラム

◆川と県産材をいかす町づくり

穴水町で、町中を流れる川をめぐるカヌーによる町おこしを見学し、地元のスギ材を使ってカヌーづくりに取り組む工房を訪問しました。

講師：まちづくり会社 江尻屋 小野寺 亮 氏

◆海の中をのぞいてみよう！ ダイバーが案内する里海体験

能登島で、シュノーケリングをして里海を体感しました。七尾湾の里海を知りつくしたダイバーから、絶滅危惧種のホソエグサなど、海草や生きものを教えてもらいました。

講師：能登島ダイビングリゾート 鎌村 実 氏

能登島ひよっこり温泉

◆夕食&交流会

輪島市三井地区へ移住した萩野夫妻から、「よそ者視点」で地域資源をいかす活動を紹介してもらいました。

・五感で感じた能登をデザインにして発信、円山を歩く会など

講師：花月総本店 萩の ゆき 氏

・土地の素材を使った家づくり、輪島土蔵文化研究会など

講師：萩野アトリエ 萩野紀一郎 氏

会場：茅葺庵 三井の里



↑ カヌーで町なか川めぐりを体験
カヤック工房NOTOで、スギでつくったカヌーの軽さ、耐久性に驚きました →



← 3班にわかれて海中の磯観察をしました。シュノーケルは初めて、という学生が多く、貴重な経験となりました。



萩野夫妻の「移住者の視点で地域資源を見出し新しいものをうみだす」活動に、学生はぐいぐい引き込まれ、夜の10時を過ぎても質問は尽きませんでした →

雨にも負けず・・・

能登のエコツアーのレクチャーを実施

3日目

3日目 プログラム

◆能登の新しいエコツアー

鉢伏山をフィールドに今年本格始動したエコツアーを体験する予定でしたが、あいにくの雨で中止。代わりに、エコツアーについての考え方やビジョン、インタープリターとしての想いなどをお聞きしました。

講師：株式会社グルーヴィ 高峰博保 氏 & 山崎昭宏 氏



エコツアーをゼロから創造する喜びと苦しみをお聞きしました。



実習を終えて

能登の里山里海の素晴らしさを堪能でき、学生たちの目がかつてないほどに輝いておりました。貴重な経験の機会を提供いただいた地域みなさんに、くれぐれもよろしくお伝えください。

長野大学
環境ツーリズム学部
教授 佐藤哲



能登の里山里海×大学生の可能性

長野大学の佐藤先生からの一番のリクエストは、「実践者の生の声をお聞きしたい」ということでした。その意味は、実習を通じて学性が示してくれました。学生は実践者の想いやビジョンに反応し、地域と人のかかわりや、新しいものを生み出す作用としての人の存在を、確実に捉えていきました。学生の感想はただいま集計中ですのであらためてご報告します。

今回、プロジェクトとして初めての实習でしたが、大学生との里山里海実習の大きな可能性を感じました。もちろん課題や改善点も多々ありますので、多くの方からのご意見ご指導をいただきながら拡げていきたいと考えています。

また、このような実習は、受入れ地域の協力なしには行えません。お世話になった地域みなさま、ありがとうございました。

里山里海アクティビティ 水口亜紀